

「家訓」をつくる

僕の家には、(北条) 早雲寺殿廿一箇条のような事細かに人生訓を盛り込んだ家訓が無い。

そうだ、作っておくべきだ！と強く認識して、僕ら二人で家訓をつくることにした。

(家訓を必要とした二つの理由)

▼この歳になってはじめて感じていることで、

「虚弱な心身にならぬこと」を子供たちに注意喚起しておきたい。きっかけは僕が歩道で転倒したこと。街路樹の根っ子が歩道の下に潜り込んで盛り上がっているのに気付かなかったのだ。幸い、手の付き方が良かったのか？大事には及ばず済んだ。転んだ際に骨折や頭を打っていたら、この先の人生は想像もしたくない。

「喜んでもよいけど、転ばぬようにね」と、インフルエンザ予防注射で伺った際に老医師にねぎらいの言葉をかけられた一昨年を思い出す。老医師ならではの、言い得て妙な一言だった。

最近では、こうした不安がつのるようになった。頭もそうだ。

自分が要介護や要介助になるなど、元気な内は思いも寄らなかったことだ。大抵は、そうなってから初めて「しまった！」と悔やんだり、得てして身近な人の不遇で初めて気付いたりするのだらう。

先ず、そうならない事が、今後の元気な人生の基本中の基本。僕ら二人とも、今現在は幸いにして何とか痴呆にもならず、歩けている。しかし、以前から心掛けてきたわけではなく、たまたまのことで、逆にそうでなかったら…と思うと、ぞっとする。

そこで、**頭も手足も動く内に始めること。**

それが肝要なことと今更ながら思う。家訓のトップに据えたいと



思った次第。

それを、恐らく元気な今は気付いていない子供たちに、しっかりと伝えてやるべきだろう。家訓づくり動機の一つである。

そして、二つ目。

▼これまでの人生経験から、子供やその先の子孫が人生を歩むとき、あるいは人生設計をする上で、参考になるのではないかと思つたこと。

そこで、僕らの来し方を振り返って、特に失敗やら達成できなかった反省点から得た教訓を中心にまとめ始めた。

・安全上あらかじめ備えるべきこと・子供の育成上大切にすべきこと・幼い内に能力や個性を共に見出すように・自分の特技や能力など特性を見出すこと・尊敬できる友人を見つけること・絶対すべきでないこと・対人で心がけること・健康維持の要点・念頭に入れておくべき遺伝性疾患・技能や資格・生涯打ち込めるものを見つけておくなど…早雲寺殿廿一箇条には及ばないが、伝承していつて欲しいことを願って。

．．．．．
遅きに失した感はあるが、僕ら夫婦の至らない人生で気付かされた人生訓のようなものを箇条書きにして、家訓としたい。

以上